

イギリス便り (四)

寺田貞次

4 Glasgow

グラスゴー大學では地學部は、大學の壯大な建物の東南隅の一角が之に充てられ、地質學並に史學教室と並で二階(2nd Floor)と三階(3rd Floor)とを使用して居ます。主任は Alexander Stevens (M. A. B. Sc.) です。私が教室を御訪れました時、氏は講義時間の間際であつたにも係はらず、懇切に御案内下され、後は助手の G. Holmes 氏が代て案内して下さいたので完全に縦覽する事が出来ました。御厚意に對し深く感謝して居ます。大學は倫敦邊の赤煉瓦の建物とは異て、スコットランドに多く見る石造の建物で、外觀は非常に立派であります。室内は光線の關係が悪く一般に陰鬱です。地學教室も同様で、教室に登る階段は極く狭く暗黒で、丁度各地でお眼にかゝつた古城内を辿る感があります。其の三階が地學部で、中央に暗い廊下が在り、兩側に教室が在るらしい、其の右側の細い道をまがると、小さい室が兩側に在る、誠に方二間としか考へられない、天井も低く丈の高い方である Stevens 教授には頭がつかへる程である、一方が教授の室、他に助手室である、且建物の中央に位して居るので陰鬱な事限りが無い、室の周圍には書棚を備へ、中

央に卓子を置てあるが、參考書など多くもなく、地圖なり紙片が亂雑に散亂して居る點から推して眞の控室としか觀察されなんだ、此の室の奥は外部に而した室で、教室である、明るい室で Map-room になつて居り、階段式に設備し、左側の壁に書棚を置き地圖に關する參考書を藏し、數名の男女學生が實習に従事して居た、廊下の左側即ち教授室の向側、大學建物の内庭に而した方に一室が在る、たいふ大きな室で、講義室である、五六十名以上は儼に收容し得る廣さである、階段式に設備し周壁には地圖などかけられてある、此の他教室の階下即ち 1st Floor に尙一室が在る、之も講義室で一層廣大な階段式教室をなして居る、教室は先づ之れだけで參考書、標本なども餘り見當らず、設備完全とも考へられなかつた、當大學に於ける地學部は一九〇九年に初めて設置されたので、H. G. Lyons (F. R. S.) 氏が最初の主任となり、J. D. Falconer (M. A. D. Sc.) 氏を経て、一九一九年以來 A. Stevens 氏に及んだので、日猶淺くが氏の盡力に依り偏しない教授法をとり、

1) the general principles of geography, and in outline, with the peoples of the world and their direct relations with their physical environment.

2) the principles of human and environmental geography.
 3) Physical geography, Cartography, Geomorphology.

等の講義の他實習にも重なる置かれて居る。參考書としては Gregory, Geography; Mill and others, International geography; Herbetson, Man and his Work; Stevens, Applied geography.; Newbigin, Animal geography.; Brunhes, Human geography (Amer. Ed.); Hinks, Map Projections; Semple, the Influences of geographic Environment; Bussel Smith, Industrial and Commercial geography.; MacFarlane, Economic geography.

等を使用して居り、其研究法の傾向をうかがふ事が出来ます。

八、Aberdeen

一日エヂンバラから Scotland の最北に在る Aberdeen を訪問しました。アバチン大學は市の中央に位し、周圍人家に接して居り、グラスゴウ大學の様な形勝の地を占めて居らぬので、グラスゴウの様な偉觀を呈し得ないのは遺憾ではあります。此の地方特産の赤花崗岩道の堂々たる建物であります。ケンブリッヂ、オクスフォードを初め英國各地に觀ると同様中庭を備ふる方形の建物で、門を入り中庭を隔て、突當りに高大な Church が在り、其の兩側は Museum になつて居る。左側は Ethnography、右側は Natural history の Museum である。教室、研究室も之と連續して居る。地學の教室は本館入口の直ぐ右側に位し、生理學、圖書館並に地質教室の上部に當つて居る。

建物の最上部所謂屋根裏が之に充てられて居る。生理學教室や地質學教室の完備して居るのに比すると、地學教室は極く簡單で粗末である。薄暗い細狭い廊下を傳て行くと其の空當りが教室である。四間に八間の長方形の室で、眞の屋根裏で天井も低く北側に一個の窓があるだけで、他は屋根を硝子張にして光線をとりて居るに過ぎん、極く陰氣な教室とも考へられない様な室である。室の中央に二脚の大卓子を控え、其の周壁に接して小形の生帷用机を十五六一列に並べてあつた。室の南側入口の右側に黒板をかけ、簡單な教壇を置き、其反對の側に幻燈機を裝置し、黒板の前に白布を下し得る様に出來て居た。周圍の壁(板張)には一面に各種の掛圖をかけ、正面の壁には Alpendler, Greece 及び伊太利圖を、左側には歐洲地質圖、埃匈圖、歐洲圖、中華全圖、加奈陀圖、を右壁には伊太利圖、歐亞全圖、獨逸、佛蘭西、露西亞圖をかけ、幻燈機の後壁には Ethnographical Map がかけてあつた。地圖は英國製も多いが獨逸 Gotha の Justus Perthes の圖も少くなかつた。室内の机の上には全體に渡って各一冊づゝの種類の異つた Atlas を置いて居る。餘り地圖許並べてあるので、教室と云ふよりも地圖陳列室の様な氣がした。教室は是一つであるが其傍に小さい室が二つ附屬して居る。一つは教室の入口に對する側に在つて、眞に教授用具の置場で、抽出付の地圖箱、地球儀、Black globe を藏し、棚を造つて掛圖を保存して居た。今一つの室は教室に入る廊下の左側、教室のすぐ隣に在る。方二間の小室で教授室である。爐を焼き、木箱、机を備えて居る。講義の時引かけて出る黒い教授服も無

造作に用ゐられてゐた。此處は英國で相當使用されて居る夫の Economic Geography の著者 John Mc Farlane (Mr. A. M. Com) 氏が居られる處。氏は以前 Manchester 大學に居られたが、最近此の教室の主任として轉せられたのである。折りよく御面會申す事が出来、助手と共に懇切に案内して下した。でつぷり肥えた、温順な顔付の方で尙極く春秋に富んで居られ、有望に見受けられた。教授は經濟地理の専門家であるだけに、教授要目を觀ると、

- 1) Ordinary Class (a) General Principles (b) Regional geography
 - 2) Advanced class...(a) A prescribed region, and...(b) of Selected problems in human and economic geography...
 - 3) Honours class...(a) the outlines of human geography, ... (b) the detailed study of prescribed regions... (c) the consideration of special problems in geography.
 - 4) Geography for B. Sc. Degree.
- ついで、參考書として書かれたり居るものゝ觀ると、
Lakes Physical Geography; De Martonne's, Traité de géographie Physique; Hardy's, the geography of Plants; Haddon's the Wandering of Peoples; Kean's, Man, Past and Present; G. Chisholm, Commercial geography; Mills, International geography; Mc Fariane's, Economic Geography; Hinks, Maps and Survey.

トキリス便り (四)

等で經濟地理に重きを置いて居る様に見え、其の研究の方針も略々推察は出来るけれども、教授は氏一人であり何だかものさみしい様な感じにうたれた。殊に教室が地圖の展覽會場になつて居るなど、如何に陳列好の英國とは云へ餘り好感を興へなかつた。教授は却て懇切でゆつくりとして行け、何時には講義がすむから、茶でも一所に飲んで御話をしようと思ふて下して居たけれども、自分は當日歸る豫定で暇がないので辭し去り、階段の處で丁度出て來られた教授夫人に出會ひ、助手の紹介で御挨拶申した。

之に反し、地質の教室はよく完備したものでしく考へられ、地學教室の階下 (2nd Floor) の一部が之に充てられて居り、長い廊下の兩側に十九室在る。廊下の右側は最初が講義室で、其の奥に小さい準備室が二つ附屬して居り、其の奥は陳列室 (Museum) となつて居り、廊下の左側は入口に近い處は Research Laboratory で、其の奥に階段を隔つて Advanced Laboratory があり、廊下の突きあたりに General Laboratory の室が在る。左側にも階段を登ると Sectioning room、Crysalley、Dark room 並に Store が在る。新しい建物であるだけに清潔で、講義室は階段教室になり、大きな講壇を置き、傍の壁には英本島の地層圖表をかまけて居る。自分の訪問した時は教壇の上に岩類標本、黒板には化石動物の圖數葉をかけて居た。次の準備室には共に抽出付の標本整理箱を備へ、採葉岩石など散亂して居た。向側の Laboratory には室の中央に大卓十數個を備へ、周壁に書棚を置き、地質雜誌、其他參考書を藏し、其次の室には

地質構造模型類を陳列してあつた、Museum は右側の最廣大な室を之に充て、周圍及び中央一帶陳列棚を並べ、室の中心に標本棚にて圍へる一小室を造り、地質を示す寫眞を蒐集陳列し、其室の中央に一個の卓子を置き、Physical Geology through the stereoscope (Underwood & Underwood) 二冊と眼鏡とを備えて居る、標本室の正面の壁には二個の記念銅版をかかげてある、一八一八八三年から九九九年迄當大學に教授たりし Henry Allayne Nicholson (1844—1899) } Geological Magazine 1903 }
 October, London 參照 }
 他は一八五三年から七八年迄當大學の地質及礦物學の教授であり、一八七九年倫敦に歿した James Nicol (1810—1879) 氏の夫である、詳細に縦覽すれば素人の自分共には有益なものもあるうけれども暇がないので此位にして辭しまつた。

九、Edinburgh

此處は Scotland の首府の地でありますだけに、大學の他に地學協會もあり、地學に關する機關が多いので、自分には興味を引き暫く滞在致しました、從て今迄申述べた他の處よりも幾分詳しく觀察を申述べることが出来ると考へます。

先づ、倫敦で地學協會を先に申述べた様に、此處でも其方から先に觀察しようと思ひます、此の地の地學協會 (Scottish Geographical Society) は市の中央に在るエヂンバラ城の西麓、Castle Terrace 通の Synod Hall 中に設けられてあります、Synod Hall と申すのは當市一般に觀る石造の大建築で、階下は音樂堂、活動寫眞場をなし、階上は諸種の學會に充てられて

居る、最初訪問した時は門前に映畫の廣告などが出て居るので異様の感にうたれる、地學協會は街路に面した、1st Floor が之に充てられて居り、倫敦の地學協會に比する事は出来なけれども、廣大な室三室を有し、相當の設備をもつて居る、先づ順次縦覽しますに、Scottish Geographical Society と書つてある戸を排して入ると、其處は事務室で、倫敦地學協會と同様、來訪者署名簿が置てあり、室の左側に爐を控へて、事務員が二人机を並べて居る、周壁は英國何處にも觀る様に書棚を以て充たし、新版新著圖書を置く机や、地圖類を備へて居る卓子等が準備されて居る、其の次の室は圖書室で、周壁は全部書棚になり、各部門に分けて内外の地學書を網羅し、室の中央には抽出付の地圖箱を置き、其の左側、即ち街路に面した窓側には長い卓子を備へ、地學關係内外の雜誌を陳列して居る、地圖箱の上にも同様雜誌類を陳列して居た、相變らず日本の地學雜誌は見當らず、唯古い邪字の學術雜誌が日本部の代表に置かれて居る形跡があつた、其の次の室は講義室で、室の正面に講壇や黒板を備へ、幻燈の設備も出來て居り、聽講者用の長い椅子を多數用意して居る、然し周壁は書棚や、偏額を以て裝飾して居る事は何處も同様で、倫敦地學協會陳列室を眞似た様な形跡がある、倫敦の場合も陳列品を少し御話しましたから、此處のも序ながら概略御紹介申します。

室の正面黒板の兩側には硝子張の平い箱を一個づつ置き、古版の地圖類を蒐集し、其隅の處には當地の出身で南阿の探検家として貢獻した David Livingston の石膏胸像が嚴然と室内

と、神眼して居る。(説明書に Missionary and Explorer Born Blun yre, Scotland, 1813. Died, Italia, Central Africa, 1873) 其傍に汚れた木片がかけられてある。リウインズストーンに關係ある記念物で、説明には

A Piece of the Tree under which the Heart of the late Dr. David Livingstone was buried by his Boys at Chitambos Village, Northern Rhodesia, Presented by Mr Denis Lyell, Monifeth 1914.

と書いてある。英國にはかう云ふ式の遺物が比較的興味を引ける様で、諸方の博物館で此の種のものをつゝ発見する。尙室の右側の壁に、リウインズストーンの探検に使用した自製の地圖が保存されて居る。説明に依ると Lake Nyasa の西南部の圖で一八五九年頃リウインズストーンの名が記されたもので、William S. Ford 氏の出陣と云ふ事になつて居る。之と並べて參謀本部の地形圖として、最近の調査に基き W. & A. K. Johnston の製した、前と同じ地方の圖が掲げてある。リウインズストーンの原圖と照合、當時を追憶する好資料としてあから眺めた。此の他標木としては、燈臺の模型や、Scottish anthracite expedition の記念物である Emperor Penguin 島の剝製 (A. Penodley's forsteri (Gray) male, captured oft Coatsland by Scottish Antarctic expedition, March 3rd 1901, presented by Dr. William S. Bruce) などがある。周壁に掲げつゝある肖像中、右の楯上に大きく見えて James Geikie (D. C. L., L. L. D.; F. R. S. President R. S. G. S. 1904-1910) 氏の油繪像を初め、

Sir John Franklin R. M.; David Livingstone, 等注意を引くもの少なからず、先年中央亞細亞の探検を終つて、本邦にも立ち寄られた際、講演を聞いた Sven Hedin (3. dec. 97) の寫真も小さいながら掲げられてあつた。

編輯便り 1

○聚落研究號は豫告の様に陽春四月を期して發行されます。多分百地五六十頁の倍大號を編纂することが出来ませう。聚落地理に關した論文集は從來我國には數へる程しか公にされて居ません。編輯の知つて居る所では矢津昌永氏の地理學小品(明治三十五年版)。地人學社同人の都市と村落(大正三年版)。小田内通敏氏の我が國土(大正二年版)などで、此の他志賀重昂氏の諸著、現に續刊されつゝある地理教材研究が人文地理特に聚落地理の論文集として著しい。今度出ます地球の聚落號は恐らく劃期的の研究論文集となることと信じます。團員並に一般講讀者の方々が充分にこの論文集を御利用になつて御自身研究の手引とされると同時に、かゝる實益と興味とある學問を大衆的に廣めることを御計り下さい。日本の地學界を榮えさせる爲に――。